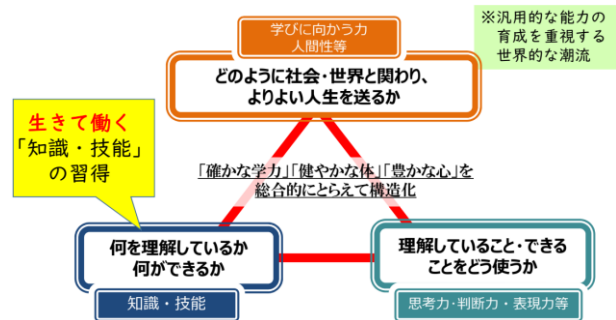


1. 現在の評価についての考え方



現行の学習指導要領（国の定める指針）では「生きる力」を育むために、左記に示された3つの資質・能力をバランスよく育成することが求められています。

「知識・技能」においては「ただ知っているだけ」ではなく「**生きて働く知識・技能**」の育成が重要であり、テストの出題方法や評価についても見直しが求められています。

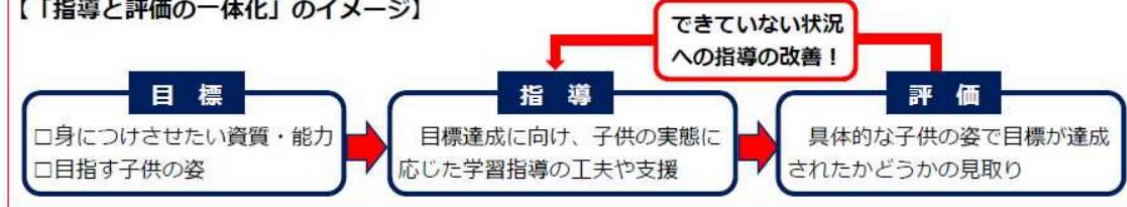
※R5県立高校入試より「生きて働く知識・技能」に関する問題が全教科10点分ずつ出題されるようになりました。

2. 指導と評価の一体化

評価については「指導と評価の一体化」というキーワードで見直しが進んでいます。

そのポイントは、評価を行うことで、**教師の「授業改善」**と**生徒の「学習改善」**の両方が図られ双方に望ましい指導サイクル・学習サイクルを生み出すことです。

【「指導と評価の一体化」のイメージ】



教師の「授業改善」

生徒の達成やつまづきを踏まえ、次の指導に生かす！

生徒の「学習改善」

自らの学習を振り返り、次の学習へ生かす！

3. テスト見直しの必要性

大項目 (内容のまとめ)	中項目 (単元)	小項目
① 身近な物理現象	(ア) 光と音	⑦ 光の反射・屈折 ⑧ 凸レンズの働き ⑨ 音の性質
	(イ) 力の働き	⑩ 力の働き
② 身の回りの物質	(ア) 物質のすがた	⑪ 身の回りの物質とその性質 ⑫ 気体の発生と性質
	(イ) 水溶液	⑬ 水溶液
	(ウ) 状態変化	⑭ 状態変化と熱 ⑮ 融点と沸点

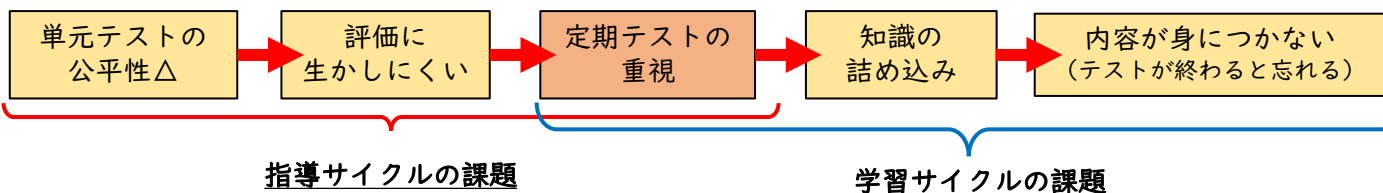
ここまで終えて 定期テスト1回

単元が終わるごとに実施 (5回の単元テスト)

左記の表は1年理科の年間計画の一部です。これまでの定期テスト（年4回）では2つの大項目を終えたぐらいのタイミングでテストを迎える状況でした。

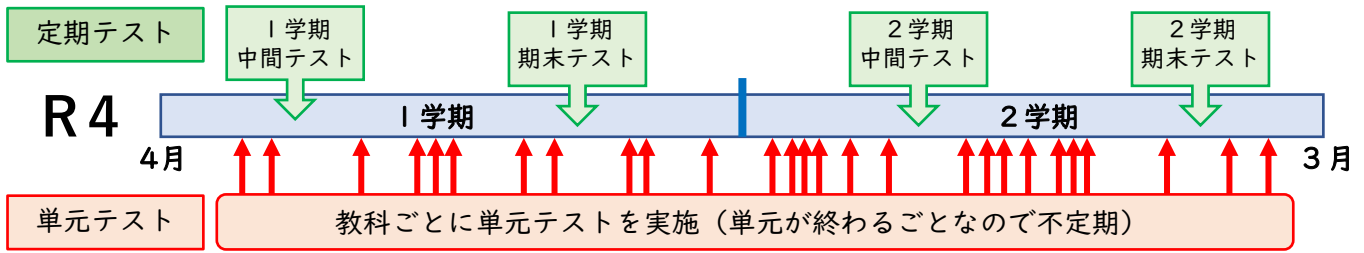
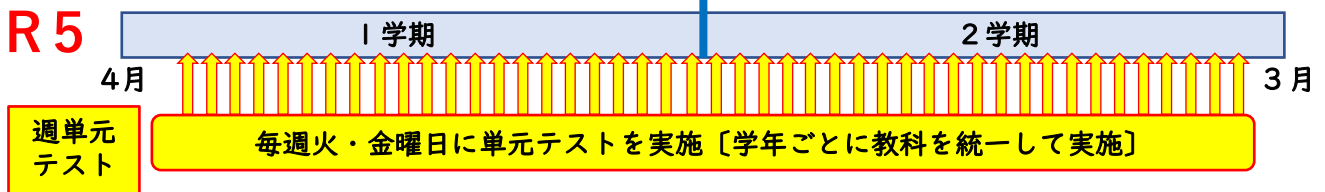
上記に示した望ましいサイクルを生み出すためには、短い間隔でのテスト・評価が効果的であると考えられます。

つまり、単元テストがより重要となってくるのですが、これまでの単元テストは授業中に実施されてきたために、実施時間の統一ができず、公平性に欠けるなどの課題を抱えており、以下のような指導・学習サイクルを招いてしまっていました。



「生きる力」を育むための、指導改善・学習改善を進めていくためには、これまで実施されてきた定期テストの見直しが必要であると考えられます。

4. 週単元テストと定期テスト・単元テストの違い

R5年度より与那原中学校のテストが変わります!!**R5からこのように変わります****週単元テスト**

定期テスト

- △単元の学習が終わってすぐに実施できるとは限らない
- △テスト間隔が長いので複数の単元が範囲となる
- △テスト前は部活動停止となり大会前などは調整が難しい

単元テスト

- △授業内で行うため実施日がバラバラで公平性に欠ける
- △教科ごとに実施されるので過密日程になることがある

- 単元の学習後、すぐに実施し学びの確かめができる
- 単元ごとに実施するため集中してテストに臨める
- 定期テストの廃止に伴い、部活動のテスト休みもなくなり継続して部活動に取り組める
- 学年ごとに統一して実施するので公平性が保たれる
- 毎週2教科ずつ実施されるので計画的に取り組むことができる

5. 週単元テストの実施のようす

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6	1年総合	単元テスト	2年総合	3年総合	単元テスト

①毎週火・金曜日の5校時終了後に実施

②テスト時間は25分間

③テスト教科・内容は学年別に計画

④試験監督がつき、公正に実施

⑤火・金曜日は「週単日課」→15:15下校

週単元テストは毎週火・金曜日と定期的実施されるため、家庭学習においては金～月…火の単元テストに向けて火～木…金の単元テストに向けてというように、計画的な取組の習慣化が期待できます。

また「週単日課」は15:15に下校のため、①部活動の充実、②放課後補習、③再テスト実施 など、生徒それぞれの状況に応じた有効な時間の使い方も期待できます。

定期テストから週単元テストへの移行により、強制的で集中的な詰め込み型のテスト勉強ではなく、自分自身で見通しを持って、普段の授業を大切に、計画的に家庭学習に取り組む習慣の確立を期待しています。→ そのツールとして、今年度から「立志ノート」の活用も進めていきます！